



第1回エネルギーセミナー

わかりやすく学ぶエネルギースクール

◎本紙面は2022年6月23日(木)に開催された、オンラインセミナーの講演・対談から抜粋・再構成しています。

カーボンニュートラルに向けて①

ウクライナ情勢を踏まえたエネルギー危機と地域経済・企業のイノベーション戦略

福井県環境・エネルギー懇話会では、エネルギーや環境問題をめぐる現状と課題を整理し、体系的に学ぶ3回シリーズのセミナーを開催しています。

第1回セミナーでは、「ウクライナ情勢を踏まえたエネルギー危機と地域経済・企業のイノベーション戦略」について学びました。

PR



講演 1

日本のエネルギー政策をどう立て直すか

エネルギースクール
メイン講師



たけうち すみこ
竹内 純子氏
NPO法人
国際環境経済研究所
理事・主席研究員

近年のエネルギー政策が、電力不足を招いた。

エネルギー問題に関しては、ウクライナとロシアの危機、夏の節電が気になるところです。脱炭素など、将来についても心配の種は多い。今回は、日本のエネルギー政策についてお話しさせていただきます。

エネルギー政策は、「3CのE」(Energy Security: 安定供給・安全保障、Economy: 経済性、Ecology: 環境性)のバランスをどう取るか、重心をどこに置くかがポイントです。日本のエネルギー政策の歴史を見ると、重心は▽戦後復興の「安定供給」▽オイルショック後の「安全保障」▽1995年頃からの「経済性」の重視▽2000年代の「環境性」に移ろってきました。

近年、経済性や環境性が重視され、安定供給・安全保障は「既に達成された政策目標」と認識されていたことが、電力不足につながっているのではな

エネルギー問題に関する私の課題意識

1. 脱ロシアは可能かーウクライナ危機の影響
2. 電力不足ー電力自由化の“失敗”
3. 脱炭素の展望と課題

今後の3つの課題と、エネルギー政策。

まず1つ目の課題「脱ロシア」についてです。日本はドイツやイタリアに比べてロシアへの依存度は低いものの、エネルギー自給率がそもそも低く、ロシアからの禁輸分を他の国際市場から持つてくるのは大変です。当面必要な政策は、化石燃料の確保と原発の活用です。中東やロシア以外の第三国からできるだけ長期契約を確保すること、新規制基準に合格した原子力の再稼働を急ぐ必要があると思います。

まとめとして

- エネルギーはライフライン(生命線)。日本の生き残り戦略として、エネルギー問題を考える必要。
- エネルギー政策は“地味で票にならない”ではなく、エネルギー政策から逃げない政策に変えていく。
- 脱炭素を、産業構造転換・新産業創出のドライバーとしてとらえてみる。

いでしょ。か。その上、「脱炭素」に、「脱ロシア」というもう1つの「脱」が加わり、日本のエネルギー政策は非常に重要な3つの課題を突き付けられています。

次の課題は、「電力不足」です。東日本大震災前、日本の電力の約3割を賄っていた原子力発電所は、ここ10年間でほぼ動いておらず、「3割バタッ」が長期離脱しているような状態です。さらに、再エネ導入と電力自由化が重なり火力発電の休廃止が増加したことも、ピーク時の電力設備の余裕を示す「予備率」の低さにつながっています。3つ目の課題が「脱炭素」です。「需要の電化」と「電源の脱炭素化」の同時進行が必要です。潤沢で安価な低炭素電源の確保がカギとなりますが、日本の国土や気象条件を考えると、再エネだけでは不十分で原発も活用する必要があります。また、需要の電化は電力事業変革のチャンスです。エネルギーは生命線。エネルギー政策から逃げない政治に変えていくことが大切だと考えます。

講演 2

自律分散型インフラビジネスを例にしたエネルギー領域における新産業創出

エネルギースクール
ゲスト講師



かわしま たけし
川島 壮史氏
U3イノベーションズ合同会社
ディレクター

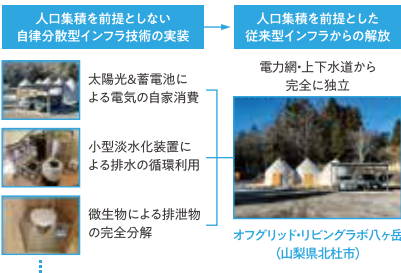
巨大なインフラから、自律分散型のインフラへ。

私たちU3イノベーションズは、「Utility3.0」をエネルギーを新たな社会システムとして再構築するものと定義しています。今回は、日本の大きな社会課題である「人口減少」と、その解決に向けた「Utility3.0」の実現例についてお話しします。

人口が減少することで、インフラを含む公共サービスは収益が悪化し存続困難になってしまいます。都市圏と遜色ない公共サービスを享受できる自治体の最低人口規模は一般的に10万人程度といわれており、福井県の場合、人口が第2の自治体がある坂井市でも約9万人と、このまま人口減少が進むことで、多くの公共サービスの存続が難しくなることが予想されます。

つまり今後は、従来の大規模・人口集積型のインフラだけでは全ての地方都市の暮らしを支えることができな

自律分散型インフラ技術を活用した新たな社会インフラ



なため、インフラ自体の転換が必要なのです。そこで私たちが取り組んでいるのが、「Utility3.0」の実現に向けた「オフグリッド・リビングラボ」プロジェクトです。目指すのは、遠くの巨大なインフラとつながる暮らしから、「必要な場所」で必要だけライフラインをつくり出す、自律分散型の未来への移行です。

自律分散型のインフラで、新産業や社会課題の解決を。

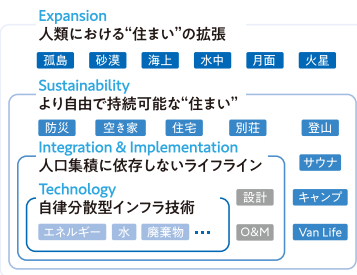
私たちは山梨県北杜市で、自律分散型のインフラ技術を活用し生活する施設を運営しています。その目的は、電気はもとより上下水道もオフグリッド(インフラ網につながらない状態)で自給自

足し、その安全性や利便性・快適性を暮らしながら実証することです。エネルギーは、太陽光で発電した電気を施設内の蓄電池にためておき、昼夜問わず100%太陽光で賄っています。またキッチンやシャワーで使った水は、施設内の水処理設備で浄化して循環利用します。これから私たちは、この自律分散型のインフラ技術をビジネスによって社会実装していくことを考えています。その入り口が、「グランピング(優雅にアウトドアを楽しむリゾートスタイル)」です。絶景を楽しむ場でも電気やシャワー、トイレを使うことができること自体が大きな価値となりうるからです。

今後、この自律分散型インフラの普及が進めば、グランピングや別荘はもちろん、将来的には砂漠でも海上でも宇宙でも住むことができるようになるはず。私たちは、今年からこうした新しいライフスタイルによる新産業の創出に取り組んでおり、その結果、人口減少という社会課題を解決していくことで、Utility3.0が実現できると考えています。

自律分散化により、極限環境にまで生活を拡張する新産業

エクストリームリビング産業(仮称)



※今回ならびに過去のセミナー内容は、ホームページにてご覧いただけます。https://www.fukui-kan-ene.net

第2回エネルギーセミナー 予告

〈テーマ〉

カーボンニュートラルに向けて②

エネルギーミックスと風力発電について学ぶ

ゲスト講師 日時 調整中 詳細はHPでご案内いたします。HPより申し込みください。

お申し込みはコチラ



主催

福井県環境・エネルギー懇話会
TEL.0776-33-7050 〒918-8004 福井市西木田2-8-1 福井商工会議所ビル6F

共催

福井県経済団体連合会
福井商工会議所